

# 経営比較分析表

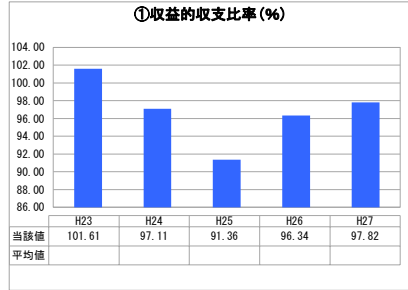
岡山県 西栗倉村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	99.67	92.50	3,045

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
1,519	57.97	26.20
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
1,500	0.61	2,459.02

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成27年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



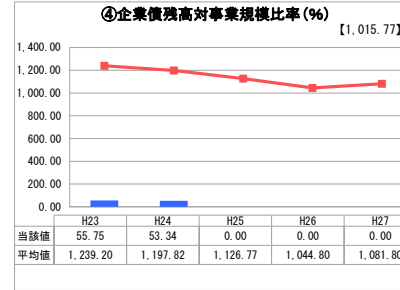
「単年度の収支」



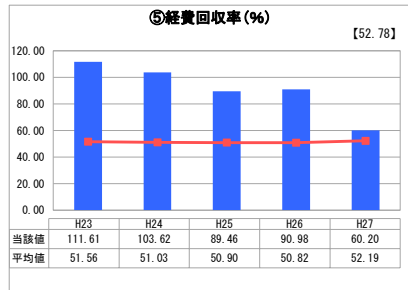
「累積欠損」



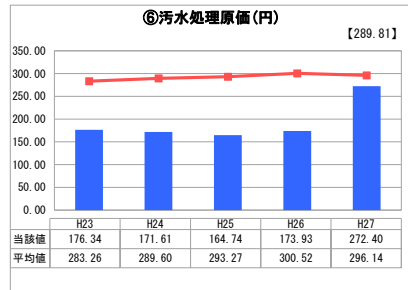
「支払能力」



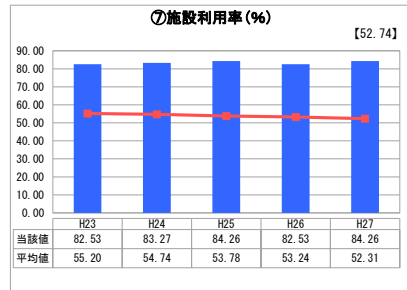
「債務残高」



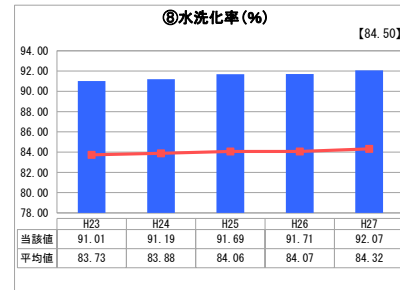
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

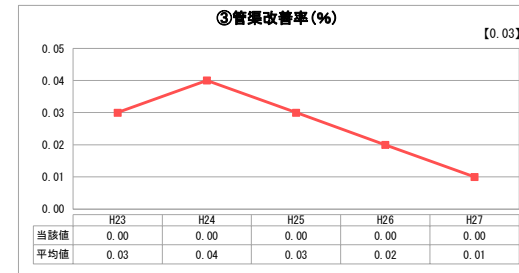
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析概

### 1. 経営の健全性・効率性について

経営の健全性について、①収益的収支比率から見られるように実質赤字経営となっており、経営の改善が急務と考える。

投資について、④企業債残高対給水収益比率から類似団体と比較し、企業債は減っていると同時に投資すべきところに投資できていない状況である。

料金水準について、⑤経費回収率 汚水処理収益以外の収益（一般会計からの繰入金等）で賄われており、繰入金については基準外の繰入金にて補填を行っているため、適切な料金収入の確保が必要であり、検討が必要と考える。

費用の効率性について、⑥汚水処理原価から類似団体と比較し、費用の効率性が高い。

施設の効率性について、⑦施設利用率から類似団体と比較し、効率的に汚水処理を行っていると判断出来る。

以上より、類似団体と比較した場合、現状においては費用及び施設の効率性は高く、経営に合った施設規模であると一見思えるが、一般会計からの繰入金により賄っているものであるため、適正な料金設定が必要と考える。

### 2. 老朽化の状況について

平成6年に供用開始しており、供用開始から約20年程度が経過している。平成22年度から順次機器等の更新を計画、実施している。管渠の更新は未実施であるため、早期に計画を立て更新を実施していく必要がある。

## 全体総括

施設の更新は随時行ってきたが管渠の更新実績がなく老朽化対策が不十分である。施設改修を行いながらも経費回収率を類似団体平均値以上に保ってきたのは一般会計からの繰入に頼ったものであり、現在も実質の赤字経営であり、正常な経営状況であるとは言えない。料金の見直しを含めた経営計画を行う必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。